

教育課程特例校制度に関わる自己評価結果

5年間にわたるスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業及び3年間の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」という、二つの文部科学省研究指定事業で蓄積した学びのスキルや地域との連携を生かして、グローバルな視点を持って地域課題の解決に貢献できるグローバル人材の育成を目指し、教育課程特例校制度を利用して、令和4年度から、松山東高グローバル事業をスタートさせた。

令和4年度入学の1年生では学校設定科目「明教探究基礎」において、多様な地域人材を活用した講演や企業フィールドワークなどを通して地域を理解し、課題発見の視点を養った。後半は地域の課題解決や魅力発見につながる課題研究テーマをそれぞれが設定し、研究成果をポスターセッションの形で発表した。

2年生ではGLコース生対象の「グローバル明教」において、専門家からの指導や助言を受けながらさらに高度な課題研究に取り組み、研究成果発表会でシンポジウム等の形で発表を行った。

○「明教探究基礎」講演タイトル例

- ・「いい、加減。まつやま」（松山市シティプロモーション推進課 まちづくり推進課）
- ・「人新世を生きる恐怖と希望」（愛媛大学社会共創学部 ルプレヒト クリストフ氏）
- ・「世界共通のゴール SDG s の達成に向かって」（愛媛大学国際連携機構 小林修氏）
- ・「企業を研究するための視点&地域活性の考え方と事例」

（学習院大学経済学部経営学科 上田隆穂氏）

○「グローバル明教」課題研究テーマ例

- ・「水から学ぶ地域の知」
- ・「多文化社会の日本語を考える」
- ・「災害の世紀に備える防災・減災のシステム論的アプローチ」

これらの活動を通して、防災を多文化共生の視点から捉え直し、改めて自分たちにできることを見直すなど、多角的な視点で様々な事象を考察する姿勢を身に付けることができた。また、2年生の課題研究では仮定と考察というステップを踏んだ説得力のあるものが多く、1年時からの継続した探究学習の成果が感じられた。これらの取組については、学校評議員会及び学校関係者評価委員会において、GL事業報告として報告し、委員の方々からはグローバルな視点や課題解決の手法を学んだ生徒たちが、将来的に愛媛県で活躍し、地域に貢献してほしいとの期待が寄せられている。